

「偏より、社交性」

あらい
こういち
新井 康一

私は精神障害者である。しかし障害だからと言って恥ずかしさを感じることはない。なぜか？コロコロと変わるからだ。

症状は常日頃出ている。田舎にいるときに、行動も言動も普通じゃないとなり、「親へ説明できないでしょ。」となった。その後、就職活動前に病院で検査をした。検査の結果は、自閉スペクトラムとのことだった。しかし、偏よった対人関係がある。接する人がマッチングアプリの相手で、相手にも障害があれば移り、また移らないことがある。正に、他人と家族のコミュニケーション障害が重いとされている。医師やリハビリする心理士へ他人を主語にすると良い方向へならない。目が覚めた。私は症状を重くしているのだ。自分自身の不安と、まとまりがない言動が重なれば、重くなる。例えば、家族との中、つきつめることが元々家族はない、とはいえ不安を気にしてどっちともつかなくなるのが結末だ。いずれにせよ「精神障害者」と手帳の病名通りならざるを得ない。きちんと休み、早い意志決定をして、でも何かあればキャンセルを少なくする。

リハビリする人、心理士と「新井さんの悩み」を聞かせ、助けを求めることへ思いこみがあり、理解し辛い。健常の人とはつながれないし、リハビリ、家族、仕事は非常に恵まれているし、その生き辛さはSDGs、誰も置いていかないへきつとなる。